

島嶼学概論 I レポート

1. はじめに

私の出身地は中国上海で、人が少ない島へ行くのは初めてで、違う風景を見せてもらった。

2015年7月4日の午前9時30分に「フェリーみしま」で鹿児島本港を出発、船で昼御飯を済まし、午後1時半到着した。島の人がジャンベをしながら、向かいにきた。三島小中学校→三島開発総合センター→温泉→ジャンベスクールというコースであった。

宗教人類学の専門で、奄美の「ユタ」を研究しようとしている。今回は、硫黄島における宗教および観光の面で論じたい。観光する時間が短いうえに、地元の人との交流が少ないため、調査というより推測の部分が多い、それに観光についての先行研究を読んだことがないため、自分の勝手の思いなので、硫黄島に適応かどうか言い切れないである。雨のなかに車でまわしたので、自然の硫黄島の美しさのほんの一部しか見えていないのが本当に残念であった。

2. 信仰



図1 熊野神社

まず、島には神社があることに驚いた。硫黄神社へ行けなかったが、熊野神社で拝みした。熊野神社は安徳帝晩年の皇居跡とも伝えられている。日本本土の神道が言うまでもなく、硫黄島に伝わってきた。神社の環境から見るとちゃんと管理していることがわかるが、島人が頻繁に拝んでくるように見えない。何かイベントをやっているような気もしない。これはあくまでの私の推測である。それに、硫黄神社は行ってないから、あそこはまた別の風景が見えられるかもしれない。

そして、島にいる時、学校の先生と一人の老人の話から見ると、鹿児島に家を持ち、よく通う人が多いようである。行政の役員たちも鹿児島に住む人が多い。この二つの面から見ると、硫黄島は鹿児島との交流が多く、信仰も鹿児島あるいは、日本本土ととくに異なるところがないと推測できるのではないか。

熊野神社

3. 観光事業

多分、今硫黄島を観光化したいと思っている。観光化するなら主に二つの方面がある。一つは現代化への観光。もうひとつは自然風景への観光。

3.1 自然観光

硫黄島は自然風景への観光に当てはまると思う。なら、硫黄島の特別な自然風景



図 2 変わった色の海

てるのも容易ではない。少なくとも、海辺や温泉のところをもうちょっと綺麗にした方がいい。そして、もう一つの問題は公共施設である。今回、硫黄島に滞在する時、案内人がいて、車で送ったりしたから、まだ大丈夫だが、個人の旅行なら、そういう交通機関がないと不便だから、自転車や車を借りられるサービスとかを用意すると思う。

3. 2 人文風景



図 3 ジャンベ

物語もあると、そういう別れの気持ちをもっと強くなると思う。もし、そのような話がなくても、今から作り出しても大丈夫だと思う。観光は伝統文化を再創作するので、そのうち、物語になる。

観光で当地の文化をすぐ接触できることは食事である。残念なことで、地元の食事を味わうことができなかった。そして、島でレストランを開くことも適当ではないと思う。観光化するのがよいが、観光地のように整えるのは島の実際の状況には合わない。食事では、地元の人と一緒に普段食べているものを食べて、現地の雰囲気味わうのがよいのではないかなと思う。この面では、硫黄島は数多くの観光客に向けてないことがわかる。5、6人ぐらいのグループが適当だと思う。

3. 3 伝統文化あるいは自然環境の破壊

はなんだろう。硫黄岳、小島、変わった色の海。小島の観光なら、島の周辺の海もポイントになる。さらに、変わった色の海という特典があるから、小さい船で島を回すコースが面白いと思う。鹿児島から船を借りて、硫黄島まで行って潜る人もいるから、島でもこういうスポットも設置したほうがいいではないか。観光化するには二つの問題点があると思う。一つはゴミ問題、昔のゴミは山に捨てるというやり方はよくないが、百人あまりの村ではゴミ処理場を立

今回体験できた硫黄島の人文的風景はジャンベである。多人数なので楽しかったが、4、5人の場合なら、踊りも教えて、一緒に踊るのも楽しくなると思う。

ここで人文風景というテーマをつけていたが、文化ということを目指す。ジャンベをやって楽しかったが、それと関わる物語があるなら、もっと良いのではないかなと思う。

船で到着した時と出発する時、島人はジャンベをした。簡単な合図だけかもしれないが、悲しい

観光化に伴う問題はいうまでもなく環境破壊である。でも、環境破壊は過度の開拓で見られるもの。前も述べたが、硫黄島は観光地として大量の観光客を受けるところに向いてない。都会の人たちにリラックスな場所としての観光化がふさわしい。この場合、人口数が少ないため、自然環境の破壊も小さいだろう。

伝統文化の破壊という話を見よう。まず、硫黄島の伝統文化はなんだろう。ここではちょっと申し訳ないが、詳しく調べていない。でも、観光化は伝統文化の再創作となるという議論はたくさんの研究者が話してきた。要するに、他人の目を通して自己のアイデンティティーを見出すのも一つのやり方である。ですから、伝統文化の破壊の心配はいらないと思う。

4. 終わりに

全文で具体的な観光化のやり方を述べたが、実は最初にやらなければならない問題は、島の特徴作りである。「硫黄島」という名を多くの人にってもらうことである。

この二日の観光から見ると、「硫黄」を取り上げるべきである。名前からも分かる特徴である。当地の硫黄を利用して、自分で花火を作るといったイベントとかは人々の目を引くだろう。それ以外に、先に研究者が島の魅力を見出して、硫黄岳を観光できるようにして、硫黄に関する周辺の品物を開発するのがこれからの課題だと思う。

最後に、今回の体験ができたことは本当に感謝する。